

日本史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本史概論	日本史概説1	2	堀 裕. 柳原 敏昭. 籠橋 俊光	3	木	2	1
日本史概論	日本史概説2	2	堀 裕. 柳原 敏昭. 籠橋 俊光. 安達 宏昭	4	木	2	2
日本史基礎講読	中世史料講読	2	柳原 敏昭	4	火	2	3
日本史基礎講読	近現代史料講読	2	安達 宏昭	4	火	4	4
日本史基礎講読	古代史料講読	2	堀 裕	3	金	3	5
古文書学	中世古文書読解入門	2	柳原 敏昭	3	火	1	6
古文書学	近世古文書読解	2	籠橋 俊光	4	水	4	7
日本史各論	英語で読む日本中世文 書	2	柳原 敏昭. クレイグ クリスト ファー	5	月	5	8
日本史各論	日本中世史研究法	2	柳原 敏昭	6	月	5	9
日本史各論	日本古代史の研究と方 法(1)	2	堀 裕	5	水	2	10
日本史各論	日本近現代史研究の 現状と課題(6)	2	安達 宏昭	6	水	2	12
日本史各論	歴史資料保全の実践 (その1)	2	佐藤 大介	5	木	4	13
日本史各論	歴史資料保全の実践 (その2)	2	佐藤 大介	6	木	4	14
日本史各論	日本古代史の研究と方 法(2)	2	堀 裕	6	金	2	15
日本史各論	近世社会の研究(1)	2	籠橋 俊光	5	金	3	16
日本史各論	近世社会の研究(2)	2	籠橋 俊光	6	金	3	17
日本史各論	日本近現代史研究の 焦点	2	吉田 裕	集中(6)			18
日本史演習	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳原 敏昭	5	月	3	19
日本史演習	鎌倉時代の法と社会(2)	2	柳原 敏昭	6	月	3	20

日本史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本史演習	室町時代の政治と社会 (1) 中世史料演習(1)	2	柳原 敏昭	5	月	4	21
日本史演習	室町時代の政治と社会 (2)	2	柳原 敏昭	6	月	4	22
日本史演習	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	5	火	2	23
日本史演習	古代史料の研究(1)	2	堀 裕	6	火	2	25
日本史演習	近世史料研究(1)	2	籠橋 俊光	5	火	4	27
日本史演習	近世史料研究(2)	2	籠橋 俊光	6	火	4	28
日本史演習	近現代史研究法	2	安達 宏昭	6	火	5	29
日本史演習	古代史料研究(1)	2	堀 裕	5	水	3	30
日本史演習	近現代政治・社会史の 研究	2	安達 宏昭	6	水	3	32
日本史演習	近世史研究法(1)	2	籠橋 俊光	5	水	5	33
日本史演習	近世史研究法(2)	2	籠橋 俊光	6	水	5	34
日本史演習	近現代政治・外交史の 研究	2	河西 晃祐	5	金	2	35
日本史演習	古代史料研究(2)	2	堀 裕	6	金	3	36
日本史実習	史料整理・保存の理論 と方法	2	籠橋 俊光	5	金	4、5	38
日本史実習	史料整理実習	2	籠橋 俊光	6	金	4、5	39

科目名：日本史概論／ Japanese History (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：堀 裕・柳原 敏昭・籠橋 俊光（准教授 他）

講義コード：LB34201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本史概説 1

2. Course Title (授業題目)：

Lecture on Japanese History 1

3. 授業の目的と概要：

日本史に関わる資料、おもに文字史料を用いて、日本の歴史の特色を明らかにする。文字史料は、歴史学を成り立たせる基本的な素材であり、その理解のしかたによっては、歴史像が大きく異なる場合もある。本講義では、おもに①政治史、②社会経済史、③文化史、④外交史の4つの視点から、史料読解を通した歴史像構築の意義を示すこととしたい。

4. 学習の到達目標：

史料読解を通した歴史像の構築の方法について学ぶこと

日本の歴史の概要と多様性を学ぶこと

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（柳原）

2. 古代史料と歴史 1（堀）

3. 古代史料と歴史 2（堀）

4. 古代史料と歴史 3（堀）

5. 古代史料と歴史 4（堀）

6. 中世史料と歴史 1（柳原）

7. 中世史料と歴史 2（柳原）

8. 中世史料と歴史 3（柳原）

9. 中世史料と歴史 4（柳原）

10. 近世史料と歴史 1（籠橋）

11. 近世史料と歴史 2（籠橋）

12. 近世史料と歴史 3（籠橋）

13. 近世史料と歴史 4（籠橋）

14. 近現代史料と歴史（籠橋）

15. まとめと試験（堀）

6. 成績評価方法：

授業に対する意見提出などの授業への参加（30%）・試験（70%）

7. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

木曜日の3限目。ただし、事前に予約のこと。

9. その他：

科目名：日本史概論／ Japanese History (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：堀 裕, 柳原 敏昭, 籠橋 俊光, 安達 宏昭 (准教授 他)

講義コード：LB44201, 科目ナンバリング：LHM-HIS201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本史概説 2

2. Course Title (授業題目)：

Lecture on Japanese History 2

3. 授業の目的と概要：

日本史に関わる事件を通して、日本の歴史の概要と特色を学ぶことを目的とする。事件とは、戦争や政変、災害をはじめ、文化的・技術的な変革も含むものであり、人々の日常生活を変え、時代の変わり目となるものである。そこで本講義では、事件を取り上げ、時代の変革を捉えたい。

4. 学習の到達目標：

日本の歴史の概要を学ぶこと

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (柳原)
2. 古代 1 (堀)
3. 古代 2 (堀)
4. 古代 3 (堀)
5. 中世 1 (柳原)
6. 中世 2 (柳原)
7. 中世 3 (柳原)
8. 近世 1 (籠橋)
9. 近世 2 (籠橋)
10. 近世 3 (籠橋)
11. 近現代 1 (安達)
12. 近現代 2 (安達)
13. 近現代 3 (安達)
14. 歴史学のいま (安達)
15. まとめと試験 (堀・籠橋)

6. 成績評価方法：

授業に対する意見提出などの授業への参加 (30%)・試験 (70%)

7. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

木曜日の 3 限目。ただし、事前に予約のこと。

9. その他：

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB42204, **科目ナンバリング：**LHM-HIS205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中世史料講読

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Japanese Medieval historical Materials

3. 授業の目的と概要：

歴史学は実証の上に成り立つ学問であり、それを学ぶ者は歴史資料を的確に読みこなすことができないといけない。本講では、その第一歩として日本中世史に関する代表的な史料を講読し、基礎的な読解力を身につけることを目標とする。また、中世社会の特質についても考える。

4. 学習の到達目標：

基本的な中世史料を読解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、議論への関与度） [40%]

7. 教科書および参考書：

講義時にプリントを配布する。

References are handed out at every class.

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ2週間前から準備を始めること。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations 2 weeks in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

9. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：安達 宏昭（教授）

講義コード：LB42402, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近現代史料講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading Japanese Modern Historical Documents

3. 授業の目的と概要：

日本の近現代史に関する史料（文書）を、輪読する形式で授業を進めていく。書かれている内容を理解するだけでなく、史料の歴史的意義の分析や、近現代史の基礎的な構造についての理解を深める。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本近現代史の史料について、読解し理解できるようになる。
- (2) 史料の読解を通して、日本近現代史を理解する上で基礎的な事柄について認識を深めることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・大日本帝国憲法の特徴
2. 大日本帝国憲法体制の展開 (1)
3. 大日本帝国憲法体制の展開 (2)
4. 大日本帝国憲法体制の展開 (3)
5. 大日本帝国憲法体制の展開 (4)
6. 大日本帝国憲法体制の変容 (1)
7. 大日本帝国憲法体制の変容 (2)
8. 大日本帝国憲法体制の変容 (3)
9. 大日本帝国憲法体制の変容 (4)
10. 大日本帝国憲法体制の変容 (5)
11. 日本国憲法体制の形成と展開 (1)
12. 日本国憲法体制の形成と展開 (2)
13. 日本国憲法体制の形成と展開 (3)
14. 日本国憲法体制の形成と展開 (4)
15. 授業のまとめ筆記試験

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験[60%]・() リポート[%]・(○) 出席[20%]・(○) その他（レスポンスペーパーなど）[20%]

7. 教科書および参考書：

随時、プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

事前に配布された史料（プリント）を授業までに必ず読んでおく。

9. その他：

履修要件：受講者は「近現代史料講読」の未履修者に限る。

オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50、要予約

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (准教授)

講義コード：LB35303, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代史料講読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory reading of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

日本古代史に関する基礎史料の講読を行う。日本古代の格（単行法令）を載せる『類聚三代格』を中心に、古代史に関する多様な史料を取り上げる。受講生は史料を読解し、各自報告を行う。これにより、歴史史料読解の能力を養う。

4. 学習の到達目標：

日本古代の漢文史料の読解力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 日本古代の文献史料について。史料講読のすすめかた。
2. 日本古代の文献史料を読む (1)
3. 日本古代の文献史料を読む (2)
4. 日本古代の文献史料を読む (3)
5. 日本古代の文献史料を読む (4)
6. 日本古代の文献史料を読む (5)
7. 日本古代の文献史料を読む (6)
8. 『類聚三代格』を読む (1)
9. 『類聚三代格』を読む (2)
10. 『類聚三代格』を読む (3)
11. 『類聚三代格』を読む (4)
12. 『類聚三代格』を読む (5)
13. 『類聚三代格』を読む (6)
14. 『類聚三代格』を読む (7)
15. まとめ と試験

6. 成績評価方法：

筆記試験 (50%)・授業への参加 (50%)

7. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『類聚三代格』前編・後編 (吉川弘文館) (必ずしも購入の必要はない)

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは木曜日の 3 限です。事前に予約ください。

9. その他：

科目名：古文書学／Paleography

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB32103, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中世古文書読解入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Medieval Japanese Primary Documents

3. 授業の目的と概要：

古文書とは、差出人と受取人とは明示されている歴史的な文書をいう。身近な例で言えば、手紙、合格通知、入学許可書、授業料納入通知書、授業料領収書、学位記等が一定の年月を経れば古文書となる（日記や編纂物、文学作品等は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、中世の武家様文書を主な素材として、用字・用語に習熟するとともに、様式の展開についてはその歴史的背景についても学べるようにしたい。

4. 学習の到達目標：

- (1) 中世の原文書を読解できるようになる。
- (2) 中世古文書学の基礎知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス①
- 2) ガイダンス②
- 3) 鎌倉幕府文書 下文
- 4) 鎌倉幕府文書 政所下文
- 5) 鎌倉幕府文書 御教書
- 6) 鎌倉幕府文書 下知状
- 7) 室町幕府文書 御判御教書
- 8) 室町幕府文書 御内書
- 9) 室町幕府文書 奉書系文書
- 10) 室町幕府文書 命令の傳達・施行
- 11) 軍事関係文書
- 12) 戦国大名文書①
- 13) 戦国大名文書②
- 14) 譲状、起請文など
- 15) 授業のまとめと試験

6. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容と授業への参加度）[20%]

7. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

References are handed out at every class.

8. 授業時間外学習：

受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated text (Pictures of ancient documents) for each class. They are also required to make a thorough review, mainly by completing assignments.

9. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：古文書学／Paleography

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LB43404, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世古文書読解

2. Course Title (授業題目)：

Reading Early Modern Documents

3. 授業の目的と概要：

古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。

4. 学習の到達目標：

(1) 近世古文書に関する基礎的知識を持つ。(2) 近世古文書の読解能力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・近世古文書学について
 2. 近世古文書の特徴と基礎的知識
 3. 文字の読解法とその訓練
 4. 武家文書 (1) 将軍関係文書・将軍発給文書①
 5. 武家文書 (2) 将軍発給文書②
 6. 武家文書 (3) 将軍発給文書③
 7. 武家文書 (4) 老中発給文書①
 8. 武家文書 (5) 老中発給文書②
 9. 武家文書 (6) 幕府発給廻状
 10. 町方・村方文書 (1) 定
 11. 町方・村方文書 (2) 人別帳・検地帳
 12. 町方・村方文書 (3) 年貢関係文書
 13. 町方・村方文書 (4) 商業関係文書・訴願関係文書
 14. 町方・村方文書 (5) 家・個人文書
 15. 講義のまとめ・試験
6. 成績評価方法：
出席[30%]・筆記試験[60%]・その他（報告の内容など）[10%]
7. 教科書および参考書：
随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。
8. 授業時間外学習：
毎回事前の予習を必要とする。
9. その他：
オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭, クレイグ クリストファー (教授)

講義コード：LB51501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語で読む日本中世文書

2. Course Title (授業題目)：

Reading the Japanese History Sources in English

3. 授業の目的と概要：

鎌倉時代の古文書の原文と英語訳の双方を読んで、史料を英訳するプロセスについて学ぶ。そのことを通じて、史料用語を概念化することについても学ぶ。担当者をあらかじめ決め、その報告を基に議論していくスタイルをとる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本史の研究を国際的に発信するための基礎を身につける。
- (2) 史料用語を概念化することに習熟する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 学生による報告と討論

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、議論への関与度) [40%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。参考書は、JEFFREY P. MASS: The Kamakura Bakufu (Stanford University Press, 1976)。References are handed out at every class. Reference book: JEFFREY P. MASS: The Kamakura Bakufu (Stanford University Press, 1976)。

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ2週間前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に資料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations 2 weeks in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

9. その他：

受講生は日本中世文書の基礎的な読解力を持っていることが望ましい。

It is recommended that participating students have basic skills in reading medieval Japanese sources.

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB61501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本中世史研究法

2. Course Title (授業題目)：

Learning how to study Japanese medieval history

3. 授業の目的と概要：

受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本中世史の研究能力を身につける。
- (2) 研究論文の作成法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容） [40%]

7. 教科書および参考書：

特になし。

Nothing in particular

8. 授業時間外学習：

報告者は入念な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も積極的に授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare carefully in advance. Students who are not presenting are to participate in discussion actively.

9. その他：

受講者は、原則として卒業論文を日本中世史で執筆する4年生に限る。

In principle, students are limited to fourth graders who write graduation theses in Japanese medieval history.

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：堀 裕（准教授）

講義コード：LB53201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本古代史の研究と方法（1）

2. Course Title (授業題目)：

Research and method of Japanese ancient history

3. 授業の目的と概要：

日本古代史に関する代表的な論文（研究文献）を読む。おもに受講生による報告を通して、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、論文とは何かを知り、論文を読み解く手法を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

日本古代史の研究成果と研究方法を学ぶ

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.

ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明

2.

論文を読む方法

3.

論文講読 1

4.

論文講読 2

5.

論文講読 3

6.

論文講読 4

7.

論文講読 5

8.

論文講読 6

9.

論文講読 7

10.

論文講読 8

11.

論文講読 9

12.

論文講読 10

13.

論文講読 11

14.

論文講読 12

15.

まとめ

6. 成績評価方法：

出席と報告（５０％）・レポート（５０％）

７．教科書および参考書：

プリント随時配布

８．授業時間外学習：

配付された論文を読むこと。報告者となっている場合は、レポートの作成をすること。

９．その他：

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：安達 宏昭 (教授)

講義コード：LB63201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本近現代史研究の現状と課題 (6)

2. Course Title (授業題目)：

Current status and problems about the study of Japanese Modern History (6)

3. 授業の目的と概要：

日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、2014～16 年に刊行された『岩波講座 日本歴史』テーマ巻 1～3 の 3 冊におさめられている日本近現代史に関連する論文を読んでいく。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する論文の要旨や内容の特徴を発表し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本近現代史に関する最近の研究を読解し、内容を理解できるようになる。
- (2) 研究の内容要旨を発表し、討論することができるようになる。
- (3) 最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 日本近現代史研究の特徴
2. 日本近現代史研究の方法
3. 『岩波講座 日本歴史』第 20 巻所収論文についての報告と討論 (1)
4. 『岩波講座 日本歴史』第 20 巻所収論文についての報告と討論 (2)
5. 『岩波講座 日本歴史』第 20 巻所収論文についての報告と討論 (3)
6. 『岩波講座 日本歴史』第 20 巻所収論文についての報告と討論 (4)
7. 『岩波講座 日本歴史』第 21 巻所収論文についての報告と討論 (1)
8. 『岩波講座 日本歴史』第 21 巻所収論文についての報告と討論 (2)
9. 『岩波講座 日本歴史』第 21 巻所収論文についての報告と討論 (3)
10. 『岩波講座 日本歴史』第 21 巻所収論文についての報告と討論 (4)
11. 『岩波講座 日本歴史』第 22 巻所収論文についての報告と討論 (1)
12. 『岩波講座 日本歴史』第 22 巻所収論文についての報告と討論 (2)
13. 『岩波講座 日本歴史』第 22 巻所収論文についての報告と討論 (3)
14. 『岩波講座 日本歴史』第 22 巻所収論文についての報告と討論 (4)
15. 『岩波講座 日本歴史』第 22 巻所収論文についての報告と討論 (5)

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他 (報告の内容、討論への取り組みなど) [30%]

7. 教科書および参考書：

『岩波講座 日本歴史』(岩波書店、2014～16 年) テーマ巻 1～3 の該当する論文を、適宜、指示する。

8. 授業時間外学習：

『岩波講座 日本歴史』テーマ巻 1～3 の指定された研究論文を、事前に読んでおく。

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐藤 大介 (兼務教員)

講義コード：LB54401, **科目ナンバリング：**LHM-HIS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

歴史資料保全の実践 (その 1)

2. Course Title (授業題目)：

Passing on the Historical heritage on Tohoku area(Part 1)

3. 授業の目的と概要：

いま、人文社会科学研究への「社会的要請」とは何か、ということが議論されています。日本史を学ぶ者にとっては、「先祖や地元の歴史を知りたい・伝えたい」という思いに応えることが、その一つといえるかもしれません。この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題について、座学、討論、実践を通じて学んでいきます。

4. 学習の到達目標：

- ・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。
- ・「社会にとっての歴史研究者の存在意義」について、自ら考える力を付けます。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「歴史史料保全活動」の経緯①
2. 「歴史資料保全活動」の経緯②
3. 「歴史資料保全活動」の経緯③
4. 史料保全活動の現状①
5. 史料保全活動の現状②
6. 史料保全活動の現状③
7. 史料保全の実践①
8. 史料保全の実践②
9. 史料保全の実践③
10. 史料保全の実践④
11. 史料保全の実践⑤
12. 史料保全の実践⑥
13. 史料保全の実践⑦
14. 史料保全の実践⑧
15. 史料保全の実践⑨—まとめ

6. 成績評価方法：

- ・平常点 (出席、討論への参加) (40 パーセント)
- ・レポート (60 パーセント)

7. 教科書および参考書：

- ・奥村弘『大震災と歴史資料保存』(吉川弘文館 2011 年)
- ・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』(東北大学東北アジア研究センター報告 2012 年)
- ・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』(東京大学出版会 2014 年)

ほか、講義中指示する。

8. 授業時間外学習：

上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。

9. その他：

- ・日本史各論 後期「歴史資料保全の実践 (その 2)」と連続履修することが望ましい。
- ・実技や現地調査を行う関係で、受講者人数を制限する (最大 15 名程度)。
- ・日本史分野で扱う史料の基礎的知識を取得しておくことが望ましい。

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：佐藤 大介 (兼務教員)

講義コード：LB64401, **科目ナンバリング：**LHM-HIS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

歴史資料保全の実践 (その 2)

2. Course Title (授業題目)：

Passing on the Historical heritage on Tohoku area(part 2)

3. 授業の目的と概要：

活字、くすし字を問わず、日本史研究で必須の「文書資料を読み解く力」は、それらに親しみのない市民が、過去の歴史を自ら学ぼうとする時、専門家に求められる能力です。地域の歴史に対する関心が高まる今、その能力を生かして市民と積極的に交流する事が求められています。この講義では、江戸時代の仙台藩に残された古文書を用いて、歴史を復元するための解読方法を学ぶとともに、知り得た内容をわかりやすく紹介するための方法を学びます。

4. 学習の到達目標：

- ・古文書の内容から、歴史を復元できるような情報を読み解く力を身につけます。
- ・さらに、その内容をどのようにしてわかりやすく伝えるかについても学びます。
- ・成果を実地に発表し、その反応を知る事で、歴史研究を学ぶ者が求められている課題を知ります。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに一市民と歴史像を共有する意義
2. 古文書を読んでみる①
3. 古文書を読んでみる②
4. 古文書を読んでみる③
5. 古文書を読んでみる④
6. 歴史像を復元する①
7. 歴史像を復元する②
8. 歴史像を復元する③
9. 歴史像を復元する④
10. 歴史像を伝える①
11. 歴史像を伝える②
12. 歴史像を伝える③
13. 歴史像を伝える④
14. 歴史像を伝える⑤
15. まとめ

6. 成績評価方法：

- ・分担か所の発表及び解説資料の内容 (50 パーセント)
- ・レポート (50 パーセント)

講義中に指示します。

7. 教科書および参考書：

歴史像を明らかにするには、多数の文献に当たる必要もあります。シラバスでそのすべてを紹介することはできませんので、講義中に指示します。

8. 授業時間外学習：

- ・この講義は、受講者による発表が基本となります。各回の予習は必須となります。あらかじめ担当か所を割り当てますので、発表前日に慌てて準備を始め「徹夜」になることのないよう、一日 30 分～1 時間程度、ないし週 2 時間程度の学習時間を、日課として取り入れていただくことをお勧めします。

9. その他：

- ・日本史各論 前期「歴史資料保全の実践 (その 1)」との連続履修が望ましいです。
- ・史料解読の能力が必要です。古文書学その他、日本史専修で開講される関連講義などで十分に学習しておいてください。
- ・少人数講義とします。希望者多数の場合は、日本史専修の学生を優先します。

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：堀 裕（准教授）

講義コード：LB65201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本古代史の研究と方法（2）

2. Course Title（授業題目）：

Research and method of Japanese ancient history

3. 授業の目的と概要：

日本古代を中心とした「王権」と宗教について論じる。東アジアのなかの交流史・比較史や、列島の中の地域史を視野にいれ、おおむね7-12世紀の「王権」と宗教の歴史的変遷を示すとともに、それが国家や社会とどのような関係にあったのかを明らかにする。

4. 学習の到達目標：

日本古代史の研究成果と研究方法を学ぶ

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに
2. アジアのなかの仏教 1
3. アジアのなかの仏教 2
4. 7世紀倭国 1
5. 7世紀倭国 2
6. 喪葬 1
7. 喪葬 2
8. 即位 1
9. 即位 2
10. 寺院 1
11. 寺院 2
12. 再びアジアのなかの仏教
13. 国家と宗教 1
14. 国家と宗教 2
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（100％）

7. 教科書および参考書：

随時プリント配布

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは木曜日3限です。事前に予約願います。

9. その他：

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB55301, **科目ナンバリング：**LHM-HIS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近世社会の研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Research in Early Modern Society (1)

3. 授業の目的と概要：

日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。
- (2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. ガイダンス
- 2. 受講者による報告と討論(1)
- 3. 受講者による報告と討論(2)
- 4. 受講者による報告と討論(3)
- 5. 受講者による報告と討論(4)
- 6. 受講者による報告と討論(5)
- 7. 受講者による報告と討論(6)
- 8. 受講者による報告と討論(7)
- 9. 受講者による報告と討論(8)
- 10. 受講者による報告と討論(9)
- 11. 受講者による報告と討論(10)
- 12. 受講者による報告と討論(11)
- 13. 受講者による報告と討論(12)
- 14. 受講者による報告と討論(13)
- 15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

7. 教科書および参考書：

講義中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回事前の予習を必要とする。

9. その他：

「近世社会の研究 (2)」と連続して受講することが望ましい。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB65301, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世社会の研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Research in Early Modern Society (2)

3. 授業の目的と概要：

「近世社会の研究 (1)」に引き続き、日本近世の社会とその研究を理解することを目的として、様々な研究論文を読み進め、理解を深める。受講に際しては議論への積極的な参加が求められる。可能であれば、必要に応じ、学外の見学なども実施する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。
- (2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. ガイダンス
- 2. 受講者による報告と討論(1)
- 3. 受講者による報告と討論(2)
- 4. 受講者による報告と討論(3)
- 5. 受講者による報告と討論(4)
- 6. 受講者による報告と討論(5)
- 7. 受講者による報告と討論(6)
- 8. 受講者による報告と討論(7)
- 9. 受講者による報告と討論(8)
- 10. 受講者による報告と討論(9)
- 11. 受講者による報告と討論(10)
- 12. 受講者による報告と討論(11)
- 13. 受講者による報告と討論(12)
- 14. 受講者による報告と討論(13)
- 15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

7. 教科書および参考書：

講義中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回事前の予習を必要とする。

9. その他：

「近世社会の研究 (1)」と連続して受講することが望ましい。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：吉田 裕 (非常勤講師)

講義コード：LB98805, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本近現代史研究の焦点

2. Course Title (授業題目)：

Focus on the Japanese Modern historical study

3. 授業の目的と概要：

「明治 150 年」ということもあって、明治という時代の評価が一つの焦点になっている。この授業では、戦争指導体制や首相権限の強化に取組んだ東条英機内閣の評価と関連させながら、あらためて明治憲法体制について再検討してみたい。アジア・太平洋戦争という視点から見た場合、明治憲法体制にはどのような評価が与えられるかというアプローチである。また、明治憲法体制下での政治運営のあり方を実際に見てみるために、伊藤隆ほか編『東條内閣総理大臣機密記録』（東京大学出版会、1990 年）、波多野澄雄・茶谷誠一編『金原節三 陸軍省業務日

4. 学習の到達目標：

明治憲法体制の特質について理解を深めるとともに、文献史料の読解方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、序論—歴史認識をめぐる諸問題
- 2、明治憲法体制の特質（1）
- 3、明治憲法体制の特質（2）
- 4、明治憲法体制の特質（3）
- 5、総力戦としての第 1 次世界大戦の衝撃
- 6、国家諸機関の分立性克服の試み
- 7、国務と統帥との統合の試み
- 8、東条内閣の成立
- 9、アジア・太平洋戦争の開戦決定と東条内閣
- 10、初期作戦の成功と内閣基盤の強化
- 11、戦局の悪化と東条内閣の崩壊
- 12、『東條内閣総理大臣機密記録』を読む
- 13、『金原節三 陸軍省業務日誌摘録 前編』を読む
- 14、『昭和天皇実録 第八』を読む
- 15、授業のまとめと試験

6. 成績評価方法：

筆記試験による

7. 教科書および参考書：

教科書は使わない。プリントを配布して講義を行う。

8. 授業時間外学習：

質問などは随時、受け付ける。

9. その他：

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭 (教授)

講義コード：LB51303, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

鎌倉時代の法と社会(1)

2. Course Title (授業題目)：

The Law and Society of the Kamakura Period 1

3. 授業の目的と概要：

鎌倉幕府は、基本法典である御成敗式目を編纂し、そのほか多数の法令・行政命令を発した（追加法という）。それらは鎌倉時代の法・社会、政権の性格を解明する上での重要な史料である。この時間は、追加法および関連史料の精密な読解を通じて、鎌倉時代の法と社会について探究する。授業は受講生による発表と討論を中心として行なう。

4. 学習の到達目標：

- (1) 中世史料の基礎的な読解力を身につける。
- (2) 報告・討論の方法の基礎を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容) [40%]

7. 教科書および参考書：

テキストは開講時に配付する。参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法 (岩波書店)。

The text will be handed out at the beginning of the course. Reference book is SATO Shinichi and IKEUCHI Yoshisuke "Chusei-Housei-Shiryousyu".

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

9. その他：

受講者は日本中世史料に関する基礎知識をもっていることが望ましい。日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。

It is recommended that participating students have basic skills in reading medieval Japanese sources. Students must take "The Law and Society of the Kamakura Period" 1 and 2 consecuti

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭 (教授)

講義コード：LB61304, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

鎌倉時代の法と社会 (2)

2. Course Title (授業題目)：

The Law and Society of the Kamakura Period 2

3. 授業の目的と概要：

「鎌倉時代の法と社会 (1)」の続講。単なる史料の読み方や基本的な知識を学ぶ場ではなく、問題点を発見し議論する場と位置づけているので、発表者には問題提起的な報告をすることが求められる。また、それ以外の受講生も主体的に議論に参加しなければならない。受講者が任意にテーマを選び報告する機会も設けたい。

4. 学習の到達目標：

- (1) 中世史料の読解力を身につける。
- (2) 鎌倉時代の法と社会について理解を深める。
- (3) 報告・討論の方法の基礎を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]

7. 教科書および参考書：

テキストは開講時に配付する。参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法 (岩波書店)。

The text will be handed out at the beginning of the course. Reference book is SATO Shinichi and IKEUCHI Yoshisuke "Chusei-Housei-Shiryousyu"

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

9. その他：

日本史演習「鎌倉時代の法と社会 (1) (2)」 (柳原担当) は連続履修すること。

Students must take "The Law and Society of the Kamakura Period" 1 and 2 consecutively.

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭 (教授)

講義コード：LB51403, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

室町時代の政治と社会 (1)
中世史料演習 (1)

2. Course Title (授業題目)：

The Politics and Society of the Muromachi Period 1

3. 授業の目的と概要：

伏見宮貞成『看聞日記』は、記主が当時の政権中枢に近く、また所領である山城国伏見庄に居住していたため、朝廷や幕府の動向から、村落内部の様相までを詳細に知ることのできる希有の史料である。この日記を精読することを通じて、記録史料の読解力を錬磨するとともに、室町時代の政治や社会について検討を加える。当然のことながら、授業は受講生による発表と議論が中心となる。受講者には、日本史演習「鎌倉時代の法と社会」より、一層高度な力量が求められる (大学院生レベルを想定)。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本中世史に関する高度な史料読解力を養う。
- (2) 報告・討論の方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、議論への関与度) [40%]

7. 教科書および参考書：

続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下 (続群書類従完成会)

Zoku-Gunsyoryuzyu Supplement2 “Kanmon Gyoki” First volume and second volume (Zoku-Gunsyoryuzyu-Kanseikai)

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

9. その他：

受講者は、原則として卒業論文を日本中世史で執筆する4年生に限る。日本史演習「中世史料演習」(1)(2)は連続履修すること。

In principle, students are limited to fourth graders who write graduation theses in Japanese medieval history. Students must take “The Politics and Society of the Muromachi Period” 1 and 2

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭 (教授)

講義コード：LB61402, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

室町時代の政治と社会 (2)

2. Course Title (授業題目)：

The Politics and Society of the Muromachi Period 2

3. 授業の目的と概要：

「室町時代の政治と社会」(1)の続講。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本中世史に関する高度な史料読解力・研究能力を養う。

(2) 報告・討論の方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1) ガイダンス

2) 学生による報告と討論

3) 学生による報告と討論

4) 学生による報告と討論

5) 学生による報告と討論

6) 学生による報告と討論

7) 学生による報告と討論

8) 学生による報告と討論

9) 学生による報告と討論

10) 学生による報告と討論

11) 学生による報告と討論

12) 学生による報告と討論

13) 学生による報告と討論

14) 学生による報告と討論

15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、議論への関与度) [40%]

7. 教科書および参考書：

続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下 (続群書類従完成会)

Zoku-Gunsyoryuzyu Supplement2 “Kanmon Gyokii” First volume and second volume (Zoku-Gunsyoryuzyu-Kanseikai)

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

9. その他：

受講者は、原則として卒業論文を日本中世史で執筆する4年生に限る。日本史演習「室町時代の政治と社会」(1)(2)は連続履修すること。

In principle, students are limited to fourth graders who write graduation theses in Japanese medieval history.

Students must take “The Politics and Society of the Muromachi Period” 1 and

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (准教授)

講義コード：LB52205, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代史料の研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

養老令の注釈書である『令集解』をテキストとしてとりあげる。精読するとともに、関連史料も調査・読解することで、史料としての扱い方に習熟する。本年度は神祇令を取り上げる。史料に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では毎回担当者が報告する。

4. 学習の到達目標：

古代史の基本史料の基礎知識を得るとともにその読解に習熟する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.
ガイダンス 『令集解』とは何か。講読のすすめかた。

2.
『令集解』を読む (1)

3.
『令集解』を読む (2)

4.
『令集解』を読む (3)

5.
『令集解』を読む (4)

6.
『令集解』を読む (5)

7.
『令集解』を読む (6)

8.
『令集解』を読む (7)

9.
『令集解』を読む (8)

10.
『令集解』を読む (9)

11.
『令集解』を読む (10)

12.
『令集解』を読む (11)

13.
『令集解』を読む (12)

14.
『令集解』を読む (13)

15.
まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（50％） 報告・討論など授業への参加（50％）

7. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『令集解』第1巻（吉川弘文館）。

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは木曜日3限です。来訪時は事前に連絡をください。

9. その他：

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (准教授)

講義コード：LB62207, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代史料の研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：

research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

平安時代の貴族の日記である『小右記』をテキストとして精読する。あわせて、関連史料も調査・読解することで、史料としての扱い方に習熟する。これにより古記録に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では毎回担当者が報告する。

4. 学習の到達目標：

古代史の基本史料の基礎知識を得るとともにその読解に習熟する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.
ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。

2.
『小右記』を読む (1)

3.
『小右記』を読む (2)

4.
『小右記』を読む (3)

5.
『小右記』を読む (4)

6.
『小右記』を読む (5)

7.
『小右記』を読む (6)

8.
『小右記』を読む (7)

9.
『小右記』を読む (8)

10.
『小右記』を読む (9)

11.
『小右記』を読む (10)

12.
『小右記』を読む (11)

13.
『小右記』を読む (12)

14.
『小右記』を読む (13)

15.
まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（50%）、報告や討論参加など授業への参加（50%）

7. 教科書および参考書：

テキスト 『大日本古記録 小右記』 1～11（岩波書店）。購入の必要はない。

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは木曜 3 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

9. その他：

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LB52403, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世史料研究（1）

2. Course Title（授業題目）：

Early Modern Document Research（1）

3. 授業の目的と概要：

本講義では、近世史料の正確な読解能力を養成する。素材には、伊達騒動に関する記録である「桃遠境論集」を用いる。御家騒動の代表例として名高い伊達騒動に関する史料を読み進めながら、事件そのものはもちろんであるが、近世前期の武家社会、藩主と重臣の関係、藩内政治の実像、武家文書の特徴、仙台藩士の存在形態、村と境界の問題などを考えていく。原文書のコピーを使用するため、相当の古文書読解能力を必要とする。

4. 学習の到達目標：

(1) 近世史料の基礎的な読解能力を身につける。 (2) 自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

ガイダンス

2. 伊達騒動について（1）

3. 伊達騒動について（2）

4. 史料読解の報告と討論（1）

5. 史料読解の報告と討論（2）

6. 史料読解の報告と討論（3）

7. 史料読解の報告と討論（4）

8. 史料読解の報告と討論（5）

9. 史料読解の報告と討論（6）

10. 史料読解の報告と討論（7）

11. 史料読解の報告と討論（8）

12. 史料読解の報告と討論（8）

13. 史料読解の報告と討論（10）

14. 史料読解の報告と討論（11）

15. 史料読解の報告と討論（12）

6. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

7. 教科書および参考書：

「桃遠境論集」（コピー配布） 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』（吉川弘文館）、『仙台市史』通史編 4 近世 2（仙台市）、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』（吉川弘文館）。

8. 授業時間外学習：

毎回事前の予習を必要とする。

9. その他：

必ず「近世史料研究（2）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB62404, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近世史料研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Early Modern Document Research (2)

3. 授業の目的と概要：

「近世史料研究(1)」の続講。近世史料の正確な読解や基礎的な知識を身につけ、その上で自ら論点を探り、深めていく。受講者には、講義への主体的な参加を求める。なお、必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。

4. 学習の到達目標：

(1) 近世史料の基礎的な読解能力を身につける。 (2) 自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 史料読解の報告と討論(1)
3. 史料読解の報告と討論(2)
4. 史料読解の報告と討論(3)
5. 史料読解の報告と討論(4)
6. 史料読解の報告と討論(5)
7. 史料読解の報告と討論(6)
8. 史料読解の報告と討論(7)
9. 史料読解の報告と討論(8)
10. 史料読解の報告と討論(9)
11. 史料読解の報告と討論(10)
12. 史料読解の報告と討論(11)
13. 史料読解の報告と討論(12)
14. 史料読解の報告と討論(13)
15. 史料読解の報告と討論(14)

6. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど)[40%]

7. 教科書および参考書：

「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4 近世2(仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)

8. 授業時間外学習：

毎回事前の予習を必要とする。

9. その他：

必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：安達 宏昭（教授）

講義コード：LB62502, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近現代史研究法

2. Course Title (授業題目)：

Method of Studies on Japanese Modern History

3. 授業の目的と概要：

近現代史における基礎的な研究テーマについて受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題
関心、視角、実証分析について発表する。そして、それに対する討論を通して、各自が論文をまとめることができるようにな
ることを目的としている。なお、日本近現代史の時期を対象にする卒業論文を書こうと考えている者は、必ず受講すること。

4. 学習の到達目標：

- (1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。
- (2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。
- (3) 上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義
2. 受講者の研究報告と討論 (1)
3. 受講者の研究報告と討論 (2)
4. 受講者の研究報告と討論 (3)
5. 受講者の研究報告と討論 (4)
6. 受講者の研究報告と討論 (5)
7. 受講者の研究報告と討論 (6)
8. 受講者の研究報告と討論 (7)
9. 受講者の研究報告と討論 (8)
10. 受講者の研究報告と討論 (9)
11. 受講者の研究報告と討論 (10)
12. 受講者の研究報告と討論 (11)
13. 受講者の研究報告と討論 (12)
14. 受講者の研究報告と討論 (13)
15. 受講者の研究報告と討論 (14)

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他（発表態度、受講態度）[40%]

7. 教科書および参考書：

特になし。

8. 授業時間外学習：

報告者の研究テーマに関する史実などを、事前に学習しておく。

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (准教授)

講義コード：LB53305, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代史料研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：

research of Japanese ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

8 世紀を中心とした歴史書『続日本紀』と、格を集成した『類聚三代格』をテキストとして、古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟する。授業では毎回担当者が報告する。できれば、現地見学会を実施する。

4. 学習の到達目標：

古代史の基本史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.

ガイダンス 『続日本紀』と『類聚三代格』とは何か。講読のすすめかた。

2.

史料を読む (1)

3.

史料を読む (2)

4.

史料を読む (3)

5.

史料を読む (4)

6.

史料を読む (5)

7.

史料を読む (6)

8.

史料を読む (7)

9.

史料を読む (8)

10.

史料を読む (9)

11.

史料を読む (10)

12.

史料を読む (11)

13.

史料を読む (12)

14.

史料を読む (13)

15.

まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（50％） 報告や討論への参加（50％）

7. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編（吉川弘文館）・同『類聚三代格』（同） 8-9 世紀に興味のある方にも受講を勧めます。

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは木曜 3 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

9. その他：

古代史料研究（1）（2）は連続履修すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：安達 宏昭 (教授)

講義コード：LB63306, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近現代政治・社会史の研究

2. Course Title (授業題目)：

A study of the Modern Japanese Political and Social History

3. 授業の目的と概要：

2014 年に編修が完了し、2015 年 3 月から公刊されている『昭和天皇実録』などを読解し、関連する史料と照合して、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。この学期において『実録』で主に読解する時期は、日中戦争からアジア・太平洋戦争開戦に至る時期を予定している。

4. 学習の到達目標：

- (1) 史料を幅広い視点から分析できるようになる。
- (2) 史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。
- (3) 上記 2 つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要
2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討
3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (1)
4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (2)
5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (3)
6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (4)
7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (5)
8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (6)
9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (7)
10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (8)
11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (9)
12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (10)
13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (11)
14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (12)
15. これまでの報告と討論のまとめ

6. 成績評価方法：

- () 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]
(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

7. 教科書および参考書：

『昭和天皇実録 第七』(東京書籍、2016 年 3 月)・『昭和天皇実録 第八』(東京書籍、2016 年 9 月)

8. 授業時間外学習：

『昭和天皇実録』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LB53501, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世史研究法（1）

2. Course Title（授業題目）：

Research Methods in Early Modern History（1）

3. 授業の目的と概要：

受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 受講者による報告と討論（1）

3. 受講者による報告と討論（2）

4. 受講者による報告と討論（3）

5. 受講者による報告と討論（4）

6. 受講者による報告と討論（5）

7. 受講者による報告と討論（6）

8. 受講者による報告と討論（7）

9. 受講者による報告と討論（8）

10. 受講者による報告と討論（9）

11. 受講者による報告と討論（10）

12. 受講者による報告と討論（11）

13. 受講者による報告と討論（12）

14. 受講者による報告と討論（13）

15. 受講者による報告と討論（14）

6. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

7. 教科書および参考書：

特になし。

8. 授業時間外学習：

特になし。

9. その他：

必ず「近世史研究法（2）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LB63501, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世史研究法（2）

2. Course Title（授業題目）：

Research Methods in Early Modern History（2）

3. 授業の目的と概要：

「近世史研究法（1）」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 受講者による報告・討論(1)

3. 受講者による報告・討論(2)

4. 受講者による報告・討論(3)

5. 受講者による報告・討論(4)

6. 受講者による報告・討論(5)

7. 受講者による報告・討論(6)

8. 受講者による報告・討論(7)

9. 受講者による報告・討論(8)

10. 受講者による報告・討論(9)

11. 受講者による報告・討論(10)

12. 受講者による報告・討論(11)

13. 受講者による報告・討論(12)

14. 受講者による報告・討論(13)

15. 受講者による報告・討論(14)

6. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

7. 教科書および参考書：

特になし。

8. 授業時間外学習：

特になし。

9. その他：

必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：河西 晃祐 (非常勤講師)

講義コード：LB55206, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近現代政治・外交史の研究

2. Course Title (授業題目)：

A study of the Modern Japanese Political and Diplomatic History

3. 授業の目的と概要：

日独伊三国同盟締結から大東亜共栄圏の崩壊までの、日本近現代史に関わる多様な一次史料を実際に読解・分析していくアクティブラーニングを進めていく。

4. 学習の到達目標：

- (1) 一次史料を多角的に分析できるようになる
- (2) 一次史料が成立した時代背景への理解を深めることができる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. 欧州戦争勃発に関する一次史料の読解と討論
- 2. 日独伊三国同盟に関する一次史料の読解と討論(1)
- 3. 日独伊三国同盟に関する一次史料の読解と討論(2)
- 4. 日独伊三国同盟に関する一次史料の読解と討論(3)
- 5. 松岡洋右の大東亜共栄圏論に関する一次史料の読解と討論(1)
- 6. 松岡洋右の大東亜共栄圏論に関する一次史料の読解と討論(2)
- 7. 松岡洋右の大東亜共栄圏論に関する一次史料の読解と討論(3)
- 8. 徴用作家の南方体験に関する一次史料の読解と討論(1)
- 9. 徴用作家の南方体験に関する一次史料の読解と討論(2)
- 10. 徴用作家の南方体験に関する一次史料の読解と討論(3)
- 11. 大東亜会議に関する一次史料の読解と討論(1)
- 12. 大東亜会議に関する一次史料の読解と討論(2)
- 13. 大東亜会議に関する一次史料の読解と討論(3)
- 14. ポツダム宣言の読解と討論(1)
- 15. ポツダム宣言の読解と討論(2)

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [] %・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度・受講態度) [30%]

7. 教科書および参考書：

河西晃祐『大東亜共栄圏—帝国日本の南方体験』(講談社選書メチエ、2016 年)

8. 授業時間外学習：

『大東亜共栄圏—帝国日本の南方体験』を通読したうえで、アジア歴史資料センターなどで関連する一次史料を自分で探してみる。

9. その他：

オフィスアワーなどについては、講義中に指示します。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (准教授)

講義コード：LB65302, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代史料研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

research of Japanese ancient historical materials 2

3. 授業の目的と概要：

8世紀を中心とした歴史書『続日本紀』と、格を集成した『類聚三代格』をテキストとして、古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟する。授業では毎回担当者が報告する。

4. 学習の到達目標：

古代史の基本史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.

ガイダンス 講読のすすめかたの確認

2.

史料を読む (1)

3.

史料を読む (2)

4.

史料を読む (3)

5.

史料を読む (4)

6.

史料を読む (5)

7.

史料を読む (6)

8.

史料を読む (7)

9.

史料を読む (8)

10.

史料を読む (9)

11.

史料を読む (10)

12.

史料を読む (11)

13.

史料を読む (12)

14.

史料を読む (13)

15.

まとめ

6. 成績評価方法：

レポート (50%) 出席 (50%)

7. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編 (吉川弘文館)・同『類聚三代格』(同) 8-9 世紀に興味のある方にも受講を勧めます。

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは金曜 4 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

9. その他：

古代史料研究 (1) (2) は連続履修すること。

科目名：日本史実習／ Japanese History (Field Work)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時. 前期 金曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LB55402, 科目ナンバリング：LHM-HIS307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

史料整理・保存の理論と方法

2. Course Title (授業題目)：

Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

3. 授業の目的と概要：

歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などとの機能の相違や、実物史料の取り

4. 学習の到達目標：

史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)

2. 史料保存の意義と意味 (2)

3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-

4. アーカイブズの理論(1)

5. アーカイブズの理論(2)

6. 史料調査・整理の実際

7. 目録論

8. 目録作成の技術 (1)

9. 目録作成の技術 (2)

10. 歴史資料の取り扱いとその実践

11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際

12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い

13. フィールド実習

14. 史料整理の基礎 (1)

15. 史料整理の基礎(2)

6. 成績評価方法：

出席[30%]・受講態度[20%]・レポート[50%]

7. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

8. 授業時間外学習：

特になし。

9. その他：

必ず「史料整理実習」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史実習／ Japanese History (Field Work)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時. 後期 金曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LB65401, 科目ナンバリング：LHM-HIS307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

史料整理実習

2. Course Title (授業題目)：

Practicum in Document Organization

3. 授業の目的と概要：

実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に

4. 学習の到達目標：

実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 史料整理実習 (1)
3. 史料整理実習 (2)
4. 史料整理実習 (3)
5. 史料整理実習 (4)
6. 史料整理実習 (5)
7. 史料整理実習 (6)
8. 史料整理実習 (7)
9. 史料整理実習 (8)
10. 史料整理実習 (9)
11. 史料整理実習 (10)
12. 史料整理実習 (11)
13. 史料整理実習 (12)
14. 史料整理実習 (13)
15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告

6. 成績評価方法：

出席[50%]・受講態度[50%]

7. 教科書および参考書：

各自古文書読解用辞典類を持参すること。

8. 授業時間外学習：

特になし。

9. その他：

必ず「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）